

広報

心の通う福祉のまちづくり



さつま町 ふくし

No.19

平成23年8月発行

発行・編集

社会福祉法人 さつま町社会福祉協議会
さつま町宮之城屋地2117-1 (宮之城ひまわり館内)

TEL 0996-52-1123
FAX 0996-52-1148



七夕飾り制作中



子育て支援センターークオラーの育児サークル（親子遊びの会）
ぴよぴよコースのみなさんです。

平成22年度決算報告

(単位：円)

勘定科目（大区分）		一般会計	収益事業 特別会計	旅客運送事業 特別会計	合 計
収 入	会費収入	4,840,200	0	0	4,840,200
	寄附金収入	4,075,295	0	0	4,075,295
	経常経費補助金収入	40,569,343	0	0	40,569,343
	助成金収入	404,000	0	0	404,000
	受託金収入	50,581,700	0	0	50,581,700
	事業収入	38,409,658	10,003,600	2,470,100	50,883,358
	貸付事業等収入	2,102,000	0	0	2,102,000
	共同募金配分金収入	3,662,700	0	0	3,662,700
	介護事業収入	134,850,168	0	0	134,850,168
	雑収入	288,680	0	0	288,680
	受取利息配当金収入	69,250	584	669	70,503
	会計単位間繰入金収入	900,000	0	0	900,000
	経理区分間繰入金収入	0	0	0	0
	経常活動収入計	280,752,994	10,004,184	2,470,769	293,227,947
	施設整備等収入計	0	0	0	0
	積立預金取崩収入	450,000	0	0	450,000
	その他の収入	2,391,240	0	0	2,391,240
	財務活動等収入計	2,841,240	0	0	2,841,240
	前期末支払資金残高	27,239,112	3,876,950	2,710,654	33,826,716
収 入 合 計		310,833,346	13,881,134	5,181,423	329,895,903
支 出	人件費支出	188,511,838	0	359,960	188,871,798
	事務費支出	16,646,963	105,027	176,445	16,928,435
	事業費支出	56,163,786	139,524	1,283,721	57,587,031
	貸付事業等支出	2,150,000	0	0	2,150,000
	助成金支出	6,125,590	0	0	6,125,590
	会計単位間繰入金支出	0	750,000	150,000	900,000
	経理区分間繰入金支出	0	0	0	0
	売上原価	0	8,406,171	0	8,406,171
	経常活動支出計	269,598,177	9,400,722	1,970,126	280,969,025
	固定資産取得支出及び繰入支出	2,034,030	0	0	2,034,030
	施設整備等支出計	2,034,030	0	0	2,034,030
	積立預金積立支出	1,351,604	0	0	1,351,604
	その他の支出	7,985,160	0	0	7,985,160
	財務活動等支出計	9,336,764	0	0	9,336,764
	予 備 費	0	0	0	0
	当期末支払資金残高	29,864,375	4,480,412	3,211,297	37,556,084
支 出 合 計		310,833,346	13,881,134	5,181,423	329,895,903

※資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表については、社会福祉協議会事務局にて閲覧できます。

皆様の
善意に
感謝申し上げます

社会福祉協議会では、皆様方より頂きました寄付を、地域福祉の向上のために使用させていただいております。

(平成二十三年二月一日)

平成二十三年四月三十一日受付分)

香典返し寄付 八十三件

百十万八千円

寄付者名 (故人名) (敬称略)

公民会 (又は住所)

植園 英雄 (故 植園スミ子) 兵庫県
米盛 一郎 (故 富重 ミエ) 白男川中
福永 冬子 (故 福永 輝雄) 北原
中園 順一 (故 中園 静香) 上向
大園 茂 (故 大園 榮治) 大阪市
今村 陸 (故 今村ワタル) 下平川
松尾 泰代 (故 中島 義春) 摩川内市
西別府幸一郎 (故 西別府三郎) 寧城巖
小久保義昭 (故 小久保ミツ) 摩川内市
永徳 政三 (故 永徳キヨエ) 二渡
上川畑フヂ (故 上川畑重雄) 大願寺
浜 了子 (故 浜 政辰) 虎居町
吉原 博茂 (故 吉原ヨシ子) 吉川
段 親夫 (故 段 義和) 尾原
高木 強 (故 高木 良満) 櫃ヶ迫

原田 洋二 (故 原田 千尋) 千葉県
西園チリ子 (故 西園 数己) 湯田下
田島 雅隆 (故 田島 一) 鶴田大角
時吉 君子 (故 時吉 三郎) 寧城巖
現王園健人 (故 現王園フクエ) 鹿兒島市
谷口 ミヨ (故 谷口 臺藏) 二渡
内之浦久美子 (故 前田 數夫) 田原
福永 一男 (故 福永 草子) 北原
迫 喜與 (故 河野 千ヨ) 麓
東條 徳松 (故 東條 タル) 船木東
東 克子 (故 東 好子) 虎居町
山口 昭幸 (故 山口 崇) 尾原
小山 悦子 (故 小山 兼徳) 上場
中間ユリ子 (故 中間 文武) 平多シ
井上 トミ (故 井上 公之) 弓之尾
上大迫幸子 (故 上大迫重規) 湯田
榎園 光男 (故 榎園 ヤエ) 鶴田
知識 洋治 (故 知識 ノブ) 東京都
山口 養一 (故 山口 俊光) 広島市
木原 芳枝 (故 木原 史生) 寧城巖
有馬 久 (故 有馬 秀吉) 東谷
中村金次郎 (故 中村 初江) 大保
宮脇 幸男 (故 宮脇フサエ) 東京都
井川 充 (故 田原タミ子) 浅井野
児玉 菊次 (故 児玉マツエ) 海老川
梅樹 典子 (故 井手 ユキ) きらら
白石シツエ (故 白石 純夫) ほたる
前野 雄次 (故 前野 信) 轟原
神野 禮子 (故 神野 隆昭) 紫尾
羽子田孝子 (故 羽子田光男) 虎居
久留須政英 (故 久留須ミヨ) 西新町

安隋 己也 (故 市園 靖) 寧城巖
愛甲 キミ (故 愛甲 十助) 広橋
満園キミノ (故 満園 政徳) 紫尾中
門前 チヨ (故 門前 信義) 小路下手
幾留ヤスエ (故 幾留 辰雄) 市場
栗野 昌美 (故 栗野ヨネ子) 栗野
原 智鶴子 (故 原 正次郎) 須杭
四枝 タル (故 四枝 新一) 寧城巖
池之野リン子 (故 池之野 勇) 広瀬
有川 ミヨ (故 有川 重喜) 大薄下
南 ツキ (故 南 キミ) 熊本市
宮脇フミ子 (故 宮脇 隆藏) 下福良
平 美治 (故 平 エミ) 黒鳥
小永田芳美 (故 小永田正博) 大角
下野 美保 (故 田畑カヅエ) 越谷市
下境田 百 (故 下境田クニ) 上狩宿
畑 純幸 (故 畑 アリ子) 鹿兒島市
白坂サチ子 (故 白坂タミ子) 東町
湯之上 勉 (故 湯之上君子) 大願寺
堤 照行 (故 堤 タケ) 大阪市
福丸 キヤ (故 福丸 文明) 弓之尾
本村ノブ子 (故 本村 ノリ) 下塚原
吉田 冷子 (故 吉田 懐) 永野
田島 文孝 (故 田島スミ子) 武白猿
轟原 信行 (故 轟原カヅエ) 武白猿
村尾 恵美 (故 村尾敬三郎) 二渡町
大山ツキエ (故 大山 重治) 屋地馬場
宮之脇 維 (故 宮之脇ミチエ) 紫尾中
上野 与一 (故 上野 末廣) 白男川
市来 栄造 (故 市来ノリ子) 時吉
山下 正寛 (故 山下マツエ) 神奈川

迫田千代子 (故 迫田 薫) 船木
岡元ノブ子 (故 岡元藏右衛門) 寧城巖
匿名希望 四件

篤志寄付 四件

二万八千八十九円

寄付者名 (敬称略)

- ・紫尾区大衆浴場 上之原 純夫
- ・さつま町母子寡婦福祉会
- ・さつま町更生保護女性会
- ・さつま町民祭フリーマーケット益金
- ・生涯学習県民大学
- 「薩摩中央高校園芸講座」

東日本大震災義援金について

このたびの東日本大震災義援金につきましましては、多くの公民会から心温まるたくさん義援金が寄せられております。七月八日まで集まった義援金は、八百四万九千四百十七円で日本赤十字社鹿兒島支部を通じて日本赤十字社本部へ届けられました。

皆様のご支援に深く感謝申し上げます。なお、義援金は九月末まで受け付けておりますので、よろしくお願いたします。

高齢者ふれあいいききサロン

さつま町では、本年度になり六カ所の公民会で新しくサロンが立ち上がり現在九十五カ所の公民会等で概ね月一回開催され、さまざまな活動がなされております。

サロンは、人と会って会話し、大声で笑い、定期的に外出する機会をつくり、仲間と楽しい時間を過ごす、このようなことが、日常生活のなかに組み込まれていることが大切です。寝たきりや認知症になる最大の原因は「閉じこもり」と言われており、サロンでは「気軽に」「無理なく」「楽しく」時間を過ごすことで寝たきりや認知症予防につながると言われております。

サロンの良さは、その地域の人々にあった形で運営され、お互いの安否を確認するとともに、虚弱なお年寄りの相互の元気づけ、仲間づくりではないでしょうか。

本年度開設された三カ所のサロンを紹介します。

永野区南川公民会は、以前より不定期ながら南方神社等でグランドゴルフを楽しみながら活動されておりましたが、この四月にサロン「南川健康づくりグランド・ゴルフ会」（写真左）として登録されました。森輝美さんを代表に二十一名の会員で地域との密着した活動をされております。



山崎区荒瀬公民会は、二年ほどまえから年に数回集まり茶話会を開いてきました。今年四月に、二名の健康づくり推進員の下野悦子さん、長福ミナ子さんを中心に発足しました。六月には、サロン「荒瀬おしゃべり会」（写真右）と命名し、サロン登録者二十三名で活動が始まっております。

「なにか私たちにできることを」と思っただけで始められたサロンボランティアです。年間計画も、無理のない、まずは楽しく集まることを大切に、メンバーと話し合いながらサロン活動に取り組むようにしています。

終野区では四月に「サロンひらぎ」（写真左）が発足しました。登録者は二十七名です。

区の社会文化部長をされているご主人の応援で、福岡安子さんが代表になり健康教室や区のイベントに参加等の年間計画を立て笑い声の絶えないサロンになることでしょう。

そして、サロンの終わりに、手作りのおやつも振舞われるようです。



次号には又、本年度に立ち上ったサロンを紹介いたします。

「東日本大震災 災害派遣」

さつま町社会福祉協議会

下口 和郎

平成二十三年五月十六日～二十四日まで九日間、鹿児島県社協における東日本大震災派遣第十七陣として、福島県いわき市で災害ボランティアセンターの運営支援を行ってきました。

いわき市は人口三十四万人で、福島県の太平洋側、茨城県よりに位置し今回の震災では甚大な津波被害をうけた市の一つであります。死者三百五名、行方不明者四十九名、避難者数七百四十三名、建物被害数は全壊、半壊を含め一万三千百二十件の被害を受けました。(六月一日現在)



いわき市小名浜地区

私が活動してきた内容は被災され

た方から「瓦礫の撤去、水産加工場の片付け、側溝の泥出し、荷物だし、避難所での子供の見守り」などの依頼を受け①全国から集まって来られるボランティアの方々の受付、②ボランティアに参加される際の心構えや注意点の説明、③必要資材の準備、④依頼のあった被災者のお宅にボランティアの方々をグループ分けして派遣するといった内容でした。



災害ボランティアセンター

全国から集まるボランティアの方は、平日は二百名から三百名、週末は五百名から六百名を越えるほどで、毎日のように参加される二十代前後の若い方達や、自分も被災し仕事も失ったが、地元復興のためにと活動に参加される方などいました。そのような全国から集まるボランティアの方々を見て「日本人の団結

力はすごいな！」とあらためて感じる事でした。

また、実際にボランティアに来ている方々は、交通費(高速代やガソリン代)、宿泊料、食事代など全部、自己負担で来られており、自分が「同じように身銭をきってボランティアにいけるか」と考えたときに、毎日二百名ほど来られているボランティアさん達には、本当に頭が下が



ボランティアの方々の活動風景

しかし、このような心温かい方々がいるなかで、現地の方から「津波が来たその夜には、すでに火事場泥棒が来ていた」と話を聞き、驚きとやるせない思いがしました。

もう一つ驚いたのが風評被害についてで、風評被害といえば、私の頭の中では農作物というイメージしか

なかったのですが、実際は「福島県から、という理由で避難所の受入れを拒否された」「婚約を破棄された」といった人的な被害も広がっているという事実があることでした。

地区全体が津波で流され「区長も民生委員も亡くなった」という地域も少なくない状況の中で、地域を再生し、地域組織機能を復活させるためには、かなりの時間と外部からの支援が必要だと思えます。これから「いわき市災害ボランティアセンター」のスタッフと繋がりが続け、遠く離れたさつま町からできる支援をしています。

一日も早い、いわき市、他被災地の復興をお祈り申し上げます。



被災地現場で見たメッセージ

地域のボランティアグループ活動紹介

「ちくりん生活音楽隊（隊長小原裕貴）」は、ひまわり館いきいき学習室にて、コンサートを開く音楽ボランティアです。平成十五年八月、当時生活が苦しかった私と妻の間に娘が生まれ、何度も話し合った結果十二月になって開いた、「贈り物」という意味合いもあつた無料コンサートが第一回となります。少々不純な動機（笑）から四十六回、八年にわたり（八月二十一日現在で）何とが続けさせて頂いております。

平成十二年に名古屋から妻を伴い本籍地湯田に移住してきた私は、当初「夫の責任」として、それまで生業としていた音楽演奏とは決別し、「手堅い仕事」をしようと決意したのですが、いろいろあつて（苦笑）、現在もまだピアノを弾き、歌をうたう毎日です。



そんな私を支えてくれる妻や家族、ヴァイオリンを弾く横山より子さん、ギターを弾く杉田和豊さん始め多くのボランティア参加者や、町

内外から駆けつけて下さる沢山のお客様達が、二ヶ月に一回の割合で、共に舞台を創っているのが「ちくりん生活音楽隊コンサート」の表の姿です。

しかし秘めたる思いとして、音楽を肴として老若男女が「希望」と「いのち」を確かめ合う、共助共生の場としての発展を目標にしています。

さて、目標の具体化として、平成十八年豪雨災害の時から二度目となる「募金活動」を今回襲った「東日本大震災」に際し、再び行いました。ただし今回は、未曾有の規模でもあり、募金だけで我々の支援の気持ちが届くならないためにも、福島県郡山市の防災対策本部に募金を届けその後、被災地の状況を見てはげましてきました。被災地で、耳と眼と肌で感じたことを、今後の活動に反映させたいと強く思いました。



「学びに終わりは無い」という出発点から、「袖振り合うも多生の縁」を感じる今日この頃。小さなことしかできませんが、許されるかぎり頑張りたいと考えています。

「メゾフォルテ（代表森山久美）」は、宮之城聖母幼稚園『お母さんコーラス』から発足した女性三部合唱のグループです。毎週木曜日午後八時から十時までひまわり館で練習します。時として練習よりも子供の事、仕事の事などおしゃべりに夢中になり、気が付くと帰る時間になることもしばしばあります。



今年十八年目を迎えるコンサート開催を計画しかし、準備を進めているとき、日本中を、否、世界中を震撼させた未曾有の東日本大震災が起こりました。自分たちに今出来ることは、少しでも被災者の皆様を元気づけてあげること、と思い、チャリティーコンサートには出来るだけ多くの方に参

加して欲しいと、関わりある三団体（シルバーカラオケ同好会、元生涯学習カラオケ教室ひびき、山崎高齢者学級カラオケ教室）の皆様の歌と屋地樂習館、鶴田中央公民館図書室勤務の方々によるブラックスシアター「かぐや姫」や「観音滝物語」、絵本と歌のコラボ、そしてフラダンス等もとり入れ、総勢四十五名で二時間のステージを無事に終えることができました。



お客さんの入りも予想より多く、また義援金も予想以上のたくさんの方の御支援をいただきました。書面を借りて厚く御礼申し上げます。

ます。義援金のすべては社会福祉協議会を通じて被災地にお届けいたしました。これからも、歌を通じて地域の皆様と交流しながらコーラスの輪を広げていきたいと思ひます。

《編集委員》

松下 正人（屋地）
桑波田敏光（屋地）
甫立ミヨ子（虎居）